

農地整備事業(経営体育成型)

土地改良事業計画概要書（第3回変更）

（ 区 画 整 理 ）

県 地 所 事	区 在 業 主	名 名 地 体	岩 星 紫 岩	山 波	・ 郡 手	犬 紫 手	吠 波	手 森 町 県
------------------	------------------	------------------	------------------	--------	-------------	-------------	--------	------------------

土 地 改 良 事 業 計 画 概 要 書

— 目 次 —

第1章	目的	1
第2章	地域の所在及び現況	1
第1節	地域の所在	1
第2節	現況	2
第3節	水利状況	4
第4節	営農の状況	4
第5節	地域環境の概況	5
第6節	道路状況	5
第3章	基本計画	6
第1節	計画の要旨	6
第2節	環境への配慮	6
第4章	工事又は管理の要領	7
第1節	工事の施工計画	7
第2節	管理の要領	7
第3節	予定工期	7
第5章	換地計画の要領	7
第1節	換地計画樹立の必要性	7
第2節	換地計画樹立の基本方針	7
第3節	土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積	8
第4節	非農用地の換地方法	9
第6章	費用の概算	10
第7章	効用	11
第8章	他の事業との関係	11
第9章	計画概要図	11

第1章 目 的

上段:変更後
下段:変更前

〃

本計画区域は、紫波町中心部より東約2kmに位置し、北上川左岸に拓けた水田農業地帯で、旧星山、犬吠森集落として一体的な地域である。

積雪寒冷地事業（昭和33年～35年）により10a区画に整備された地域であるが、区画は10aと狭小で農道は3m程度と狭く、用水は用排水兼用の土水路のため湿田状態により大型機械の導入や低コスト営農展開への阻害要因となっている。また農業用排水施設の維持管理にも多大な労力を要している。

これらを解決するため、農村環境の保全に配慮しながら本計画による区画の拡大と用排水路の装工、暗渠排水による乾田化など水田の汎用化を推進し、高生産性ほ場の造成による営農の効率化及び各種施設の維持管理の省力化を図ると共に、換地による担い手への農地集積を促進し、経営規模拡大による農業経営の安定を図るものである。

地区面積

(単位: ha)

現況地目 市町村名	水 田	普通畑	樹園地	計	道水路等	その他	合 計
紫波町	115.9	0.0	〃	115.9	12.5	0.5	128.9
	119.3	0.8	－	120.1	13.2	0.8	134.1

第2章 地域の所在及び現況

第1節 地域の所在

〃

本計画区域は、紫波町中心部より東約2kmに位置し、北上川左岸に拓けた水田農業地帯で、旧星山、犬吠森集落として一体的な地域である。

上段:変更後
下段:変更前

第2節 現 況

第1項 地形、地質及び土壤

本地区は、一級河川北上川の左岸平地部に連坦した水田地帯で、地区の下流末端は北上川左岸に接している。地形傾斜は、東西方向に北上川に向かって1/400程度、南北方向は南へ1/400程度の傾斜を成し、標高は93m～113m程度となっている。

母材は非固結堆積岩、固結火成岩、固結堆積岩で、堆積様式は水積、洪積世堆積残積、崩積である。土壤は、灰褐色土壤強粘土構造型（G60）および灰褐色土壤粘土質構造マンガン型（G61）および黒色土壤粘土腐食型（H72）および黄褐色土壤壤土マンガン型（I83）である。

第2項 気 象

（1）一般気象

（岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 令和6年3月版）
（岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 平成26年3月版）

観測所名	紫波気象観測所	かんがい期	非かんがい期	計 又は平均	備 考
観測期間	H25年～R4年 H15～H24年	" 5 月 ～ " 8 月	" 9 月 ～ " 4 月		
平均気温 (℃)		20.6 19.7 ℃	6.2 5.6 ℃	11.0 10.3 ℃	
降水量	平均 (mm)	614.5 528.9 mm	679.9 741.8 mm	1,294.4 1,270.6 mm	
	基準年 (mm)	" — mm	" — mm	" — mm	
降水日数	平均 (日)	45 46 日	82 93 日	128 138 日	
	基準年 (日)	" — 日	" — 日	" — 日	
根雪期間		" 月 " 日 ～ " 月 " 日	" 月 " 日	" 日間	
無霜期間		" 5 月 3 日 ～ " 10 月 18 日	" 月 17 日	169 167 日間	
最多風向		" S	最大風速 (風向)	20.1 20.7 m/sec " —	

(2) 特殊気象

上段:変更後

下段:変更前

(岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 令和6年3月版)

(岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 平成26年3月版)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
紫波気象観測所																
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
最大日雨量 (mm)	〃	〃	1/390	〃	〃	1/366	211	H25 8/9	1/275	210	T9 8/9	1/266	135	S15 9/4	〃	
M34年～R4年	222	S13 8/15	1/435	220	H19 9/17	1/409	210	T9 8/9	1/297	135	S15 9/4	1/22	133	H14 7/11	1/20	
M34年～H24年																
最大時間雨量 (mm)	69.5	H27 6/16/16	1/80	64.5	H25 8/9/11	1/56	52	H13 8/3/21	1/22	52	S35 8/10/16	1/22	51	H6 9/30/11	1/20	
S31年～R4年	52	H13 8/3/21	1/30	52	8/10/16 8/10/16	1/30	51	H6 9/30/11	1/27	49	S60 9/7/19	1/23	46	H19 9/10/6	1/17	
S31年～H24年																
最大4時間雨量 (mm)	196	H25 8/9/13	・・・	164.5	H25 8/9/14	・・・	160	H25 8/9/12	・・・	111	H25 8/9/11	1/110	98	H27 6/16/17	1/48	
S31年～R4年	82	H19 9/10/8	1/42	81	H19 9/10/9	1/39	81	H16 9/30/12	1/39	78	H19 9/10/7	1/29	77	H16 9/22/4	1/26	
S31年～H24年																
最大3日連続雨量 (mm)	〃	〃	1/899	〃	〃	1/605	〃	〃	1/114	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
M34年～R4年	359	T9 8/10	1/855	340	T9 8/9	1/	265	T9 8/11	1/113	238	S13 8/15	1/60	231	M43 9/3	1/51	
M34年～H24年																
最大連続旱天日数 (日)	〃	〃	・・・	〃	〃	1/613	〃	〃	1/397	〃	〃	1/175	〃	S53 6/29	1/120	
M34年～R4年	55	S18 6/19	1/	40	S21 7/16	1/424	39	S3 7/18	1/282	37	H11 7/18	1/131	36	S3 6/29	1/92	
M34年～H24年																

第3節 水利状況

上段:変更後
下段:変更前

第1項 用水状況

//

本地区の水源は、一級河川北上川の他、溪流水である。北上川からは水利権取得による揚水機取水である。その他準用河川間木沢川及び溪流水は水利権および慣行水利権はない。

地区内は場への用水網は、揚水機場～支線用水路～小用水路または、ため池～小用水路により組織されているが、構造は土水路が大半である。営農上の維持管理の必要から、これまで土地改良区による局所的な装工・修繕が行われているものの、流下断面が一定でなく、法面の侵食等による通水障害も度々生じており、用水管理及び施設の維持管理等に多大な経費を費やしている。

第2項 排水状況

//

地区西側を縦断する形で北から南方向へ一級河川北上川が流れ、また、地区を横断する形で東から西方向に支流の間木沢川及び赤川が北上川に流下している。地区内の排水は小排水路からこれら支流に流入し北上川へ流出している。

本地区の排水系統は、排水路と用水路が兼用水路となっているため、用水系統と同一の系統となっている。また、地区が河岸沿いの平地部に位置しており、地形勾配が緩やかで且つ水路底が浅い土水路方式のため排水能力が不足している。

第4節 営農の状況

専業別農家数及び平均経営耕作面積

2020年農林業センサス
2015年農林業センサス

項 目 戸 数			専 業	第一種 兼 業	第二種 兼 業	計	一戸 当たり 平均 経営 耕地 面積	田	普通畑	樹園地	計	地 域 指 定 等
専 兼 業 別	紫 波 町	戸 数	321 戸	255 戸	748 戸	1,324 戸		2.6 2.73 ha	0.1 0.23 ha	0.2 1.25 ha	2.9 - ha	農業振興地域整備計画R5 農業振興地域整備計画S45
		割 合	24.2 %	19.3 %	56.5 %	100 %		90 - %	3 - %	7 - %	100 - %	振興山村地域S45
	本 地 区	戸 数	18 戸	22 戸	72 戸	112 戸		- 0.80 ha	// - ha	// - ha	// - ha	特定農山村区域H5 農業経営基盤強化促進基本 構想 R4
		割 合	16.1 %	19.6 %	64.3 %	100 %		// - %	// - %	// - %	// - %	農業経営基盤強化促進基本 構想 H17

上段:変更後
下段:変更前

経営農用地広狭別農家数											2020年農林業センサス 2015年農林業センサス		
区 分	総経営 体数	経営農用地広狭別農家数									耕地の分散状況		一経営体当たり 平均耕地面積
		経営 耕地 なし	0.3ha 未満	0.3ha ～ 0.5ha	0.5ha ～ 1.0ha	1.0ha ～ 1.5ha	1.5ha ～ 2.0ha	2.0ha ～ 3.0ha	3.0ha ～ 5.0ha	5.0ha 以上	一戸当たり 団地数	団地当たり 面 積	
紫波町	1,661 1,427	— 28	— 75	— 136	— 320	— 247	— 160	— 204	— 130	— 127			2.9 ha 3.9

第5節 地域環境の概況

本地区は、紫波町中心部より東約2kmに位置し、北上川左岸に拓けた水田農業地帯である。地区内は田園的な景観を呈しており、土壌は主に灰色低地土、黒泥土、黄褐色土が分布している。気候は内陸型の盆地気候で冬季は比較的温暖で積雪量はあまり多くない。

周辺の森林は、スギ、アカマツ、カラマツ等の針葉樹やコナラ、ミズナラなどの広葉樹からなる。本地区周辺地域では希少植物としてエゾノミズタデの生育が確認されている。そのほかにカタクリ、フキノトウ、ヨモギ、タンポポ、スミレ等が全域に生息している。周辺の河川、ため池、水路にはコイ、フナ、ドジョウ等が生息している。昆虫類ではトンボやセミなど多くの昆虫類を見ることができる。

第6節 道路状況

本計画地区は、地区西側を南北に国道456号が縦断し、地区中央を県道紫波江繋線が東西に横断している。また地区北東側を南北に一級町道星山北田線、地区南東側を南北に二級町道星山大巻線が縦断し、それぞれ県道紫波江繋線に接続しており、本地区の幹線道路機能を果たしている。しかし、ほ場内においては、道路幅員が2～3mと狭く、大型機械化農業経営に支障をきたしている現状である。

第3章 基本計画

上段:変更後
下段:変更前

第1節 計画の要旨

//

区画形質の改善、用排水路と農道の整備、暗渠排水による水田の汎用化、換地による農地の集団化、非農用地創設による土地利用調整を総合的に実施し、大区画は場の実現による土地利用型農業の規模拡大によって、営農の効率化と農業生産性の向上を図る。

計画事業量一覧

種 別		事 業 量	摘 要
区 画 整 理	整 地 工	106.7 117.2 ha	106.7ha 表土扱い A=112.5ha
	道 路 工	15,895 12,922 m	B=5.0 (4.0) , 7.0 (4.0) 砂利道 B=5.0 (4.0)
	用水路工	21,192 16,373 m	VU350～VU75 VU300～VU75
	排水路工	14,314 12,496 m	HF300×300～1300×800、L型水路3200×1400～4000×1600 鉄筋コンクリート排水フリューム水路 FL2,200×1,300 HF1,000×1,000～HF300×300
	暗渠排水工	100.9 112.5 ha	

第2節 環境への配慮

//

環境との調和への配慮として、ため池周辺に生育するエゾノミズタデの生育環境を損なわないよう、区画整理区域を設定したほか、林地帯沿いの区画計画は現地形に沿った区画形状とすることで、林地帯への影響を最小限に留め、生態系や景観に配慮した計画とする。

第4章 工事又は管理の要領

第1節 工事の施工計画

1. 工事は、全て県営事業により請負工事とする。

2. 施工は、農業土木工事共通仕様書による他、特記仕様書による。

第2節 管理の要領

施工後の諸施設の管理は、紫波町および紫波東部土地改良区とする。

第3節 予定工期

令和8年度
平成26年度～令和5年度

第5章 換地計画の要領

第1節 換地計画樹立の必要性

農業経営の発展に資するため、区画の大区画化等による経営規模拡大を促進し、担い手農家等へ農用地を面的に集積する必要がある。また、道路用地について本事業計画により創設し、地域の土地利用調整を総合的に進める必要があるため、狭小な区画、狭幅な農道、道水路の配置不足等を解消するための効率的な耕地組織の確立と農村地域の健全な土地利用を実現するための換地計画を樹立する必要がある。

第2節 換地計画樹立の基本方針

第1項 従前地の地積の基準

換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画の決定の日の登記簿地積とする。
但し、上記の日から2か月以内に土地家屋調査士の測量した実測図に、隣接所有者の承諾書を添付して申出があった場合にはその申出地積とする。

上段:変更後
下段:変更前

第2項 農用地集団化の方針

区分 換地区	地帯別グループ 別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	一戸当り目標団地数	区画畦畔の取り扱い
星山・犬吠森	営農グループ別集団化 集落別集団化	〃 各人の従前の土地が最も密集した位置を基本としつつ 大規模経営を促進するため、地域の中心となる経営体へ 農用地集積が図れるように配置する。	〃 1～2団地	〃 固定畦畔

第3項 清算の方法

〃
増加額、比例地積清算方式

第3節 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

(単位:ha)

用途	公用公共用地				一般国有地	合計
	国有地	県有地	市町村有地	計		
道路	〃 —	〃 —	4.5 4.8	4.5 4.8	〃 —	4.5 4.8
水路	〃 —	〃 —	7.7 8.4	7.7 8.4	〃 —	7.7 8.4
計	〃 —	〃 —	12.2 13.2	12.2 13.2	〃 —	12.2 13.2

上段:変更後
下段:変更前

第4節 非農用地の換地方法

(単位: m²)

換地区名	区 分	用 途	所 在	面 積 (m ²)	換地の手法	換地取得 予 定 者	その他
全区		// 県道拡幅用地	// 紫波町	2,309.28 3,200	// 不換地又は特別減歩 見合いの創設換地	// 岩手県	// 県道紫波・江繋線 現況路線拡幅
計				2,309.28 3,200			

上段:変更後
下段:変更前

第6章 費用の概算

単位:千円

項 目 事 業 名		総 事 業 費		負 担 内 訳			備 考	
当該事業 農地整備事業(経営体育成型) (区画整理)		費 目	金 額	国費(50.0%)	県費(30.0%)	地元負担(20.0%)		
						市町村(5%)	農家(15.0%)	
		事 業 費	2,659,000 1,806,000	1,329,500 903,000	797,700 541,800	132,950 90,300	398,850 270,900	
		工 事 雑 費		〃 —		〃 —	〃 —	
		事 務 費		〃 —		〃 —	〃 —	
		計	2,659,000 1,806,000	1,329,500 903,000	797,700 541,800	132,950 90,300	398,850 270,900	

上段:変更後
下段:変更前

第7章 効 用

区 分 \ 項 目	区画整理 (千円)		備 考
	便 益 額	所 得 額	
食料の安定供給の確保に関する効果	46,930	△ 6,389	
作物生産効果	40,441	△ 3,957	
営農経費節減効果	173,248	195,977	
維持管理費節減効果	109,405	110,638	
	△ 5,564	2,569	
	△ 7,919	△ 3,688	
農業の持続的発展に関する効果	〃		
耕作放棄防止効果	0		
農村の振興に関する効果	12		
非農用地等創設効果	7		
その他効果	10,254		総費用総便益比は農業用排水整備 重複分の区画整理を含んで算定
国産農作物安定供給効果	-		
合 計	224,880	192,157	総費用総便益比＝ 1.21
	141,934	102,985	

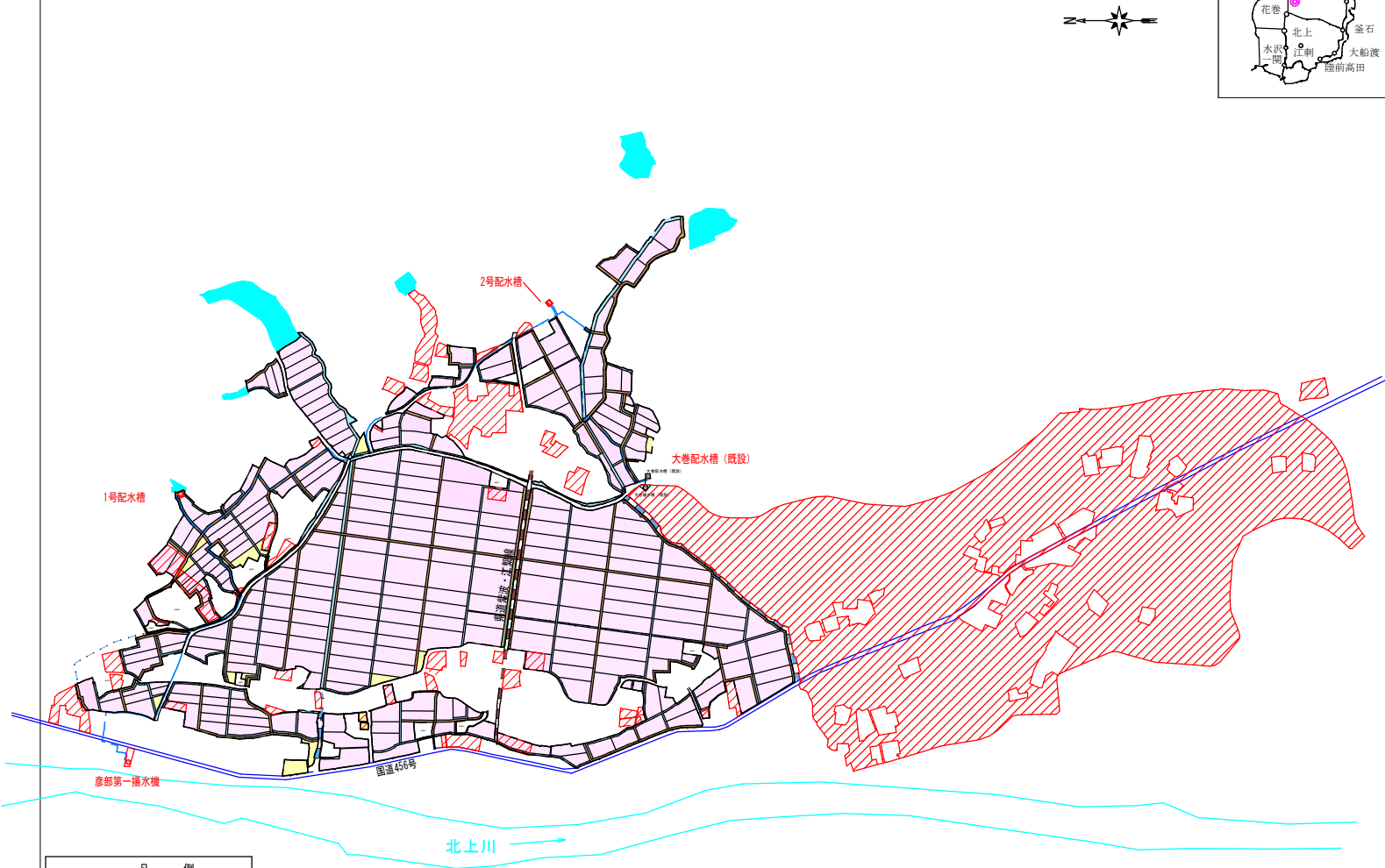
第8章 他の事業との関係

区分	事 業 名	事業主体	受益面積	工 期	事業費 (百万円)	前年度までの 進 捗 率	事業との関連
異 種	農地整備事業(経営体育成型) (農業用排水施設整備)	〃 岩手県	195.2 221.2 ha	H26～R8 H26～R5	1,411 1,176	70 0 %	663百万円 重複受益分708百万円

第9章 計画概要図

別 添

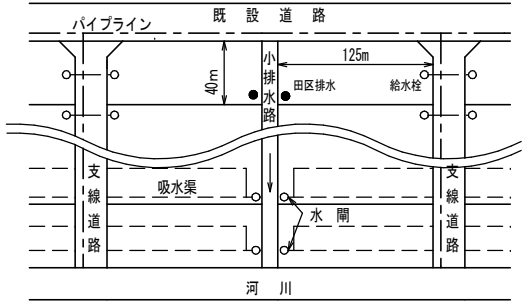
星山・犬吠森地区 計画一般平面図
(区画整理)



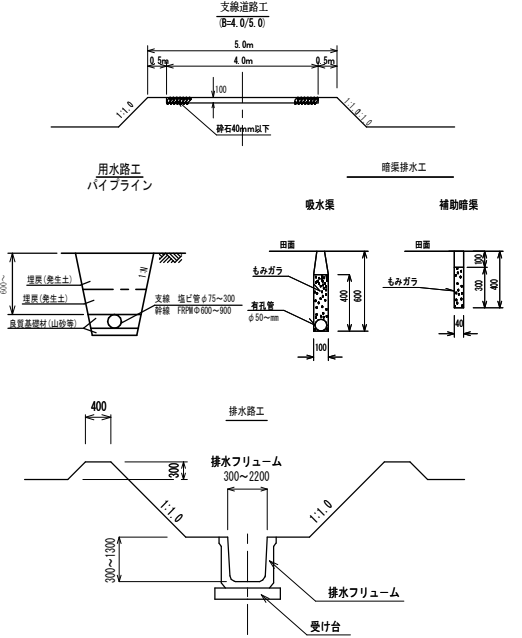
凡 例	
一定区域	——
計画道路	——
計画排水路	——
道路既設利用	——
排水路既設利用	——
計画水田	——
計画畑	——
用排水施設整備区域	——
創設非農用地	——



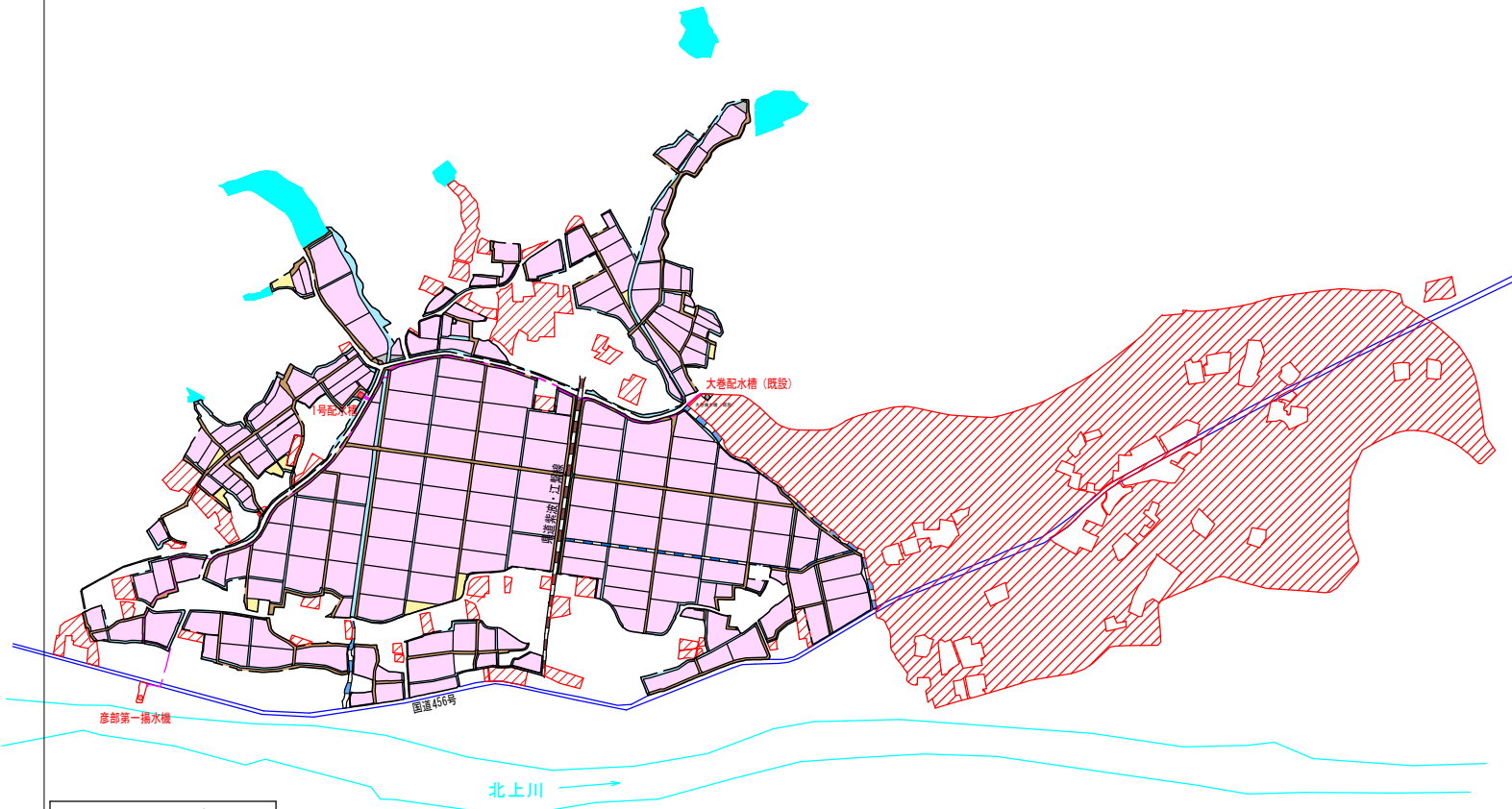
標準区画割図



標準構造図



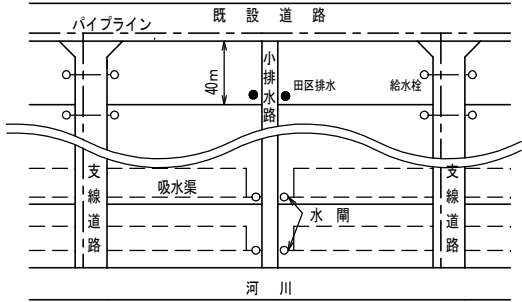
星山・犬吠森地区 計画一般平面図
(区画整理)



凡	例
一定区域	— — —
計画道路	— — —
計画排水路	— — —
道路既設利用	— — —
排水路既設利用	— — —
計画水田	— — —
計画畑	— — —
用排水施設整備区域	— — —
創設非農用地	— — —



標準区画割図



標準構造図

